コラム 10-2　他者の視線と社会

知らない人と偶然に目が合ってしまった場合，日本では「目をそらす」（視線を合わせないようにする）ことが一般的であり，ある種の社会･文化的なルールとなっています。これは，動物同士で視線が合った場合には，攻撃を意味することがあるので，「特に敵意がない」ことを目をそらす（視線を合わせないようにする）ことで相手に伝えるという他の哺乳類などに見られる生物学的な行動と一致しています。

しかし欧米諸国では，知らない人と目が合った場合には，目を合わせたままで，笑顔になるか軽くうなずくなどして，敵意や悪意がないことを示します。これは文化的なルールの違いで，日本でのように，無表情で相手から目をそらすと，欧米では相手に失礼な感じを与えてしまいます。しかし，日本で知らない人と目が合ったときに，にっこり笑ったら，相手から「危ない人」だと思われる可能性が高いでしょう。

どちらも進化の過程で獲得した視線の危険性とその解消という共通の意味が背後にあるのですが，「相手に対して敵意はない」ことを示す方法が，社会によって異なる形をとってきた点は興味深いものです。このような文化や社会による共通ルールの違いは他にもたくさんありますが，異文化では思わぬ誤解にもつながることがあるので注意が必要です。